

No.133 会社訪問

代表取締役社長 白石 誠仁 氏



代表取締役社長 白石 誠仁

八洲環境エンジニアリング株式会社

会社プロフィール

代表者：代表取締役社長 白石 誠仁

本 社：〒116-0014 東京都荒川区東日暮里三丁目11番17号
TEL. 03-4214-8151 FAX. 03-4214-8158西日本支店：〒730-0051 広島県広島市中区大手町三丁目8番1号
大手町中央ビル9階
TEL. 082-247-8963 FAX. 082-247-8971関西営業所：〒541-0042 大阪府大阪市中央区今橋三丁目3番13号
ニッセイ淀屋橋イースト4階
TEL. 06-7166-8046 FAX. 06-7166-8049

設 立：2018年4月1日

資 本 金：350,000,000円

事業内容：空調・換気設備機器、冷凍・給排水衛生設備機器などの
販売及び据付の設計・施工・請負並びに保守・サービスU R L：<https://www.yashimadenki.co.jp/yke>

聞き手：梅垣 善通（専務理事）、岡田 康弘（事務局長） 取材・編集：クリエイティブ・レイ株式会社

八洲電機(株)の空調工事業を分社化した100%子会社
ライフサイエンス分野・インダストリアル分野における
環境制御の開拓者としてトータルソリューションを提供

御社の主な事業内容や特徴についてお聞かせください。

弊社は広範な建築事業において、空調・給排水衛生設備工事の設計から施工、管理までを一貫して行っています。

具体的に言うと、高層ビルなど大規模な建築物のほか、工場のクリーンルームやスーパーケミカルクリーンルーム、また大学の研究室で活用される実験動物飼育施設やバイオクリーンルーム、さらには化学・医薬品・食品業界などの冷却システム、冷凍・冷蔵設備、またエンジンの環境試験設備などです。お客様の要望に応じた自社設計のもとで、施工・その後の運用管理を行っています。

一般的な空調・給排水衛生設備にとどまらず、特殊なノウハウや設計技術が必要とされる建築物を手掛けておられるのですね。

例えば、クリーンルームや、バイオハザード、ケミカルハザードの対策が必要な設備などは、空調システムの設計、施工、実際に運用してからの保守まで厳密なレベルと管理が求められます。

また、薬品や食品などを保管するための冷凍・冷蔵

設備なども、高いレベルで品質を保つことが求められます。さらにエンジンの試験設備などでは、テストのために急激に高温になる環境や急激に低温になる環境を作り出すことなども必要になります。そうした特殊設備にも、自社の技術とノウハウの強みを活かしてひとつひとつお応えしています。

また付随して、設備にともなう色々な産業機器の注文がございまして、その販売も行っています。クリーンエアー製品、環境試験装置、照明製品、セキュリティシステムなどといったものですが、こちらは株式会社日立産機システムの製品をはじめ主要メーカーの製品を取り扱っています。設立して2年ですが、2019年度の売上げは40億円強と予想しています。

創業は2018年ということですが、設立の経緯を教えてくださいいただけますか。

2018年4月1日に八洲電機株式会社の100%出資子会社として設立されました。八洲電機本体は戦後間もない1946年8月の創業で、今年が創業73周年となります。「八洲」は「やしま」と読み、古事記や日本書紀に記さ

経営資料

れている「八つの島からなる日本」を意味する言葉です。日本を支え世界に通用する会社になろうという大きな理想のもとに創業されました。

当初は株式会社日立製作所の製品の販売が主でしたが、そこから広く事業を発展させていき、今日では、①電機制御システム②環境システム③交通システム④情報システム⑤エネルギーシステムの5つを柱に環境技術・サービスを提供しています。その中の空調・給排水衛生設備関連の事業を2018年に独立させたのが弊社です。

八洲環境エンジニアリングとして会社を設立した大きな理由の1つは、経営判断の迅速化です。八洲電機の営業は商社のような動き方が求められているので、特殊空調や工場関係のご依頼を頂いた時に、社内の設計部門と検討や調整をしている過程でのスピードアップに難しさが出ていました。それに伴い、経営判断のスピードが鈍ってしまうことが懸念されていました。その様な事から、分社化をして、お客様に弊社の提案するソリューションについて速やかにしっかりと説明できて納得していただける体制をとった方が良かったらということになったわけです。

分社化することにより専門性をより高めることが出来、また、八洲電機のグループを活用することで、幅広いトータルソリューションの提供を実現出来るという思いがありました。

ちなみに私は法律家なので、法律的に言うと『会社分割』という形になります。私は弊社では社長という立場、そして本体の八洲電機では副社長という職責を担っています。

より専門性が強く、より案件への対応が迅速化されることはお客様にとってもありがたいものだと思います。とはいえ、設立時には色々なご苦労があったのではないのでしょうか。

やはり様々なことがありました。事業が設計や施工、保守という性格上、案件は数年をまたいで継続するものが多数になります。つまり当初は八洲電機とお客様の間で契約した案件を、継続して八洲環境エンジニアリングで行うことになります。すると法律上、契約書の名義を変更することが必要となるわけです。それをお客様にご

理解いただいて、お客様にもお手間をお願いしなければなりませんでした。

この時は全従業員がお客様のもとに何度も足を運び、丁寧にご説明をさせていただき、最終的には全てのお客様から引き続きお仕事をさせていただけるようになりました。また私としても、契約書にまつわる法律というのは四角四面になぞるだけでなく、色々な読み方、解釈の仕方が出来ますので、弊社にもお客様にも一番良い着地点を見つけながら進めさせていただきました。苦労はしましたが、お客様や社員に非常に感謝をした出来事でもありました。

また、建設業法との関係で社内のマネジメントにも骨を折りました。八洲電機が建設している案件を弊社が承継したとはいえ、現場の責任者の籍を移して良いかと言うとそうはいかないのです。そのため昨年1年間は案件の終了時期を踏まえながら、社員が徐々に弊社に転籍してきたという具合でした。ようやく今年になってほぼ形が整い、従業員51名で仕事にあたっております。

白石社長の言葉には何か常にポジティブさを感じます。ほかに経営者として喜びを感じた出来事がございましたらお聞かせください。

やはり一番嬉しいのは、設計前の折衝から長くやりとりをしてきたものを完成した設備として納品した際に、お客様からお褒めの言葉をいただいたり、関わった弊社の



特殊空調設備・関連機器などの専門知識を持ち合わせる営業部スタッフと経験豊かなベテランスタッフが揃う業務部

経営資料



エンジニアリング部の定例会議風景(上)
様々な要望に応える設計・積算部(下)

社員にねぎらいの言葉をいただく時です。何ものにも代えがたいもので、「またやるぞ！」と活力を生み出すものとなっています。お客様に対して奉仕の精神を常に持って接し、それに対して感謝をいただけることが、喜びであり、やりがいになっています。

そして個人的にやりがいと感じていることがもう一つあります。弊社の納入先には、学校や企業、研究所などの研究開発部門が多数あります。我々の設備が、今後の先端技術開発の礎になるのであれば、最高の成果であり社会貢献につながるのだと思っています。

様々なイノベーションを生み出す礎となる設備を世に送り出されているわけですね。今後の事業における新たな展望はございますか。

一番大切なことは、現在のお客様のご依頼をしっかりとやっていくことにほかなりませんが、展望とも課題とも言えるのが再生医療の分野です。

ips細胞や再生医療はニュースでもご存知の通り、今後非常に注目されているテクノロジーです。その実験施設や産業化するための施設が必要となることは間違いないのですが、そう言われながらもまだ臨床研究例がいくつかというところには止まっています。

弊社は、特殊空調や特殊設備を理化学関連において

は長らく手掛けてきましたが、医療関連の施設や病院などに強く太い販売ルートを確認できているわけではありません。

この先2030年、50年と段階的に再生医療の産業が拡大すると言われていますが、今のうちにライフサイエンス分野の販売ルートを確認しておかないと、その時になって販売ルートをすぐに見つけられるわけではありません。

弊社の事業をこれから10年後、20年後に拡大するために、今、布石を打っておかねばならない新しい分野だと考えています。

御社の拠点は東京本社のほか、広島に西日本支店があり、八洲電機のグループ自体も広島・岡山に拠点多いですね。

広島、岡山の瀬戸内海地域は、鉄鋼・石油メーカーや精密メーカーをはじめ様々な工場がある工業地帯で、八洲電機グループのお客様も数多くいらっしゃいます。

広島は自動車関連の産業も盛んです。そういう意味でスムーズにやり取りが出来るよう、広島に西日本支店を置いています。また関西には大阪に関西営業所を置いています。

御社の経営方針や経営理念をお聞かせください。

経営理念は八洲電機グループで共有しております。それは「信、愛、和」です。「信」は社会に信用・信頼されること、「愛」は社会に奉仕すること、「和」というのは社会に協力・協調することです。そういう会社であることがグループの理念であり、弊社の理念でもあります。

そして経営方針、あるいはビジョンと言ってもよいかもしれませんが「すべてのお客様に心から満足していただける製品とエンジニアリングを提供して、環境配慮型社会の構築に貢献する」ということです。

空調衛生設備・給排水衛生設備を通して「環境配慮型社会の構築」を弊社が担うのだということを経営ビジョン・経営理念として社員に徹底しています。

今後の目標や課題はございますか。

現在、建築関連のどの会社も抱えている課題ですが、この1～2年、ビルの建設などが多くなっているものの、協力業者や事業者が慢性的に人手不足となっています。

経営資料

弊社では以前から協力事業者各社と密にコンタクトをとってまいりましたが、それ以上に案件が多く、なかなか苦勞しています。従業員も非常に頑張っていますが、より密接な関係をつくっていくことが大切だと思っています。

もうひとつは、少子高齢化ということで、若い新しい人材の確保をどう進めていくかということです。それにも関連し、弊社に限らず、八洲電機グループ全体で働きやすい環境づくりへの取り組みをいち早く進めてきました。

休暇や働き方においても、フレックス制度の導入、休暇の増加、またダイバーシティマネジメントということで、女性が活躍しやすい職場を作るための育児休暇の拡充などにも取り組み、そうした健康経営をモットーに掲げています。八洲電機本体は、経済産業省と日本健康会議が選定する『健康経営優良法人2019(ホワイト500)』にも認定されました。これは従業員のため、からだの健康、職場の健康、こころの健康を増進していく取り組みが評価されたものです。

また、この様な色々な施策が、実際に生産性向上にもつながっていることを嬉しく思います。時代の経済状況によるところもあるとは思いますが、八洲電機グループでの利益も最高益が見込まれていて、一人当たりの利益も上がっています。

働く従業員が心地よく仕事ができる社内制度が整えられているんですね。そうした中で、御社が持つ技術やノウハウを若い世代に引き継いでいこうということですね。

事業継続が出来る体制を構築していくためには、若い技術者の確保は非常に重要な点です。弊社では熟練の技術を持った60代以上の再雇用などもフレキシブ

ルに行っており、八洲電機グループでの最高齢の方は78歳です。そうした熟練者が働きやすい環境を整えながらも、将来のためには若い世代を育成することが必須です。

例えば、ある案件を受注するにも社内にもそのための資格を持つ責任者がいなければ出来ないことが多々あります。そのため、現在も既に設けているのですが、資格を取得したことに対する手当をさらに拡充していくような、インセンティブを与える給与体系などを継続的に検討しなければいけないとも思っています。

そういった中で、最も大切にしたいのは、やはり「社員が幸せを感じてモチベーションを持って働く」と言うことです。ある意味、私が一番重視しているところです。

設立して2年目ですが、本体の八洲電機にも良い文化があり、またそれとは違う弊社の文化というものもこれから醸成していきたいと思っています。その根本には、本当に社員が幸せになれる会社であるということがとても大切だと思っています。

人材が“財産”であるという思いを強く感じます。白石社長の座右の銘がございましたらお聞かせください。

「まことに日に新たに、日に新たに、また日に新たなり」という言葉が好きです。日が新しくなるたびに自分自身を新しくしていくということで、“日々自戒をしながら成長していこう”という意味だそうです。

これは儒学の四書に『大学』というものがあり、その中の言葉です。株式会社日立製作所で部長をしていた時に、研修会で触れた言葉で、今も一日一日を新しいものにしていこうという気持ちでいるための座右の銘としています。

——新しい歴史を刻みはじめた御社にマッチする言葉に感じました。最後に、当協会へのご意見やご要望はございますか。

10月より加入させていただき、そのことをありがたく思っています。これを機に、他の協会員の皆様と色々な意見交換、連携や協業などをしながら深くつながっていきたく思っています。セミナーや懇親会のイベントにも、従業員を積極的に参加させていただきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願ひします。



様々な現場の状況に柔軟に対応するエンジニアリング部